

# 聴覚障害学生 の 意思 表明 を 促す 支援 担当 教 職 員 の 働 き かけ

○有海順子<sup>1</sup>・益子徹<sup>2</sup>・甲斐更紗<sup>3</sup>・吉川あゆみ<sup>4</sup>・松崎文<sup>5</sup>・池谷航介<sup>6</sup>・太田琢磨<sup>7</sup>・木谷恵<sup>8</sup>・萩原彩子<sup>9</sup>・中島亜紀子<sup>9</sup>・平良悟子<sup>9</sup>・白澤麻弓<sup>9</sup>

1 山形大学 2 日本社会事業大学大学院 3 九州大学 4 関東聴覚障害学生サポートセンター 5 宮城教育大学 6 東京大学/国立民族学博物館 7 愛媛大学 8 立命館大学 9 筑波技術大学

KEY WORDS: 聴覚障害学生 意思表明支援 合理的配慮

## 1. 目的

合理的配慮の提供は、障害学生からの意思表明が契機となるが、聴覚障害学生の場合、入学時点で支援ニーズに無自覚な学生が多く、意思表明を促す支援が必要となる。しかし、障害学生支援を担う人材の業務内容に関する調査は行われているものの(岡田ら, 2012)、聴覚障害学生 の 意思 表明 支援 に 特 化 し た 具 体 的 な 検 討 は 十 分 に な さ れ て い な い 。 そ こ で 本 研 究 で は 、 聴 覚 障 害 学 生 支 援 の 実 績 が 長 い 大 学 の 支 援 担 当 教 職 員 を 対 象 に イン タ ビ ュ ー 調 査 を 実 施 し 、 聴 覚 障 害 学 生 の 意 思 表 明 を 促 す 具 体 的 な 方 法 を 明 ら か に す る こ と を 目 的 と し た 。

## 2. 方法

(1) 対象者:聴覚障害学生支援の実績が長い大学6校の障害学生支援担当教職員13名(1校あたり1~4名)

(2) 調査方法:聴覚障害学生 の 意 思 表 明 を 促 す た め の 働 き かけ に つ い て 半 構 造 化 面 接 法 に よ る イン タ ビ ュ ー 調 査 を 実 施 し た (2016年7~8月)。調査実施にあたり、事前調査票を郵送し、自由記述による回答を求め、その内容を基にインタビューを行った。対象者の承諾を得てインタビューの様子をビデオカメラで撮影し、その逐語録を修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(木下, 2003)により分析した。なお倫理的配慮として、協力は任意であり、得られたデータは本研究のみに使用し、個人が特定されないことを対象者に説明し、紙面による同意を得た上で調査を実施した。

## 3. 結果

インタビュー結果から類似例ごとにまとめ分析ワークシートを作成し、35個の概念が生成された。さらに概念間の関係性を検討した結果、8つのカテゴリが生成された(Table 1)。

Table 1 の と お り 、 対 象 者 は 聴 覚 障 害 学 生 の 意 思 表 明 を 促 す た め に 、 聴 覚 障 害 に 関 す る 知 識 や 対 人 援 助 技 術 等 の 支 援 ス キ ル を 活 用 し な が ら (カ テ ゴ リー 8)、 学 生 の 様 子 や 段 階 に 応 じ て 様 々 な 働 き かけ を 実 施 し て い る こ と が 示 さ れ た 。 特 に 対 象 者 が 注 力 し て い た の は 、 初 回 面 談 に お け る 対 応 (カ テ ゴ リー 1) で あ っ た 。 対 象 者 は 初 回 面 談 に お い て 聴 覚 障 害 学 生 の 特 性 や 状 況 を 丁 寧 に 把 握 し 、 聴 覚 障 害 学 生 の 情 報 保 障 に 関 す る イ メ ー ジ 形 成 を 助 け 、 彼 ら の 自 己 決 定 を 先 回 り せ ず に 見 守 り 、 そ の 意 思 を 尊 重 す る よ う 働 き かけ て い た (カ テ ゴ リー 1 お よ び 2)。

また、対象者は多様な聴覚障害学生 の 心 理 を 受 け 止 め 、 信 頼 関 係 を 築 き 、 継 続 的 に 関 わ る こ と や (カ テ ゴ リー 4 お よ び 6)、 周 圍 の 人 々 と の 関 係 性 を も 考 慮 し 、 意 思 表 明 し や す い 環 境 の 整 備 を 心 が け て い た (カ テ ゴ リー 7)。

さらに、聴覚障害学生 と の 丁 寧 な 対 話 の 積 み 重 ね や 聴 覚 障 害 学 生 の 当 事 者 性 を 育 て る 働 き かけ (カ テ ゴ リー 5) を 通 じ て 、 支 援 に 対 す る 主 体 的 な 行 動 や 意 思 表 明 の 重 要 性 を 聴 覚 障 害 学 生 に 徐 々 に 認 識 さ せ 、 聴 覚 障 害 学 生 が 場 面 に 応 じ て 必 要 な 支 援 を 自 ら 考 え 、 そ の 意 思 を 表 明 し 、 主 体 的 に 支 援 を 利 用 し て い け る よ う 、 意 識 し て 支 援 し て い る 様 子 が う か が え た (カ テ ゴ リー 3)。

## 4. 考察

本研究の結果、「初回面談」が聴覚障害学生 の 意 思 表 明 支 援 の 重 要 な ス タ ー ト で あ り 、 聴 覚 障 害 学 生 の 情 報 保 障 に 対 す る 支 援 ニ ー ズ を 深 め て い く た め の 重 要 な 局 面 で あ る こ と が 示 さ れ た 。 ま た 、 意 思 表 明 支 援 の 質 や 内 容 は 、 支 援 担 当 教 職 員 の 持 つ 知 識 や 支 援 技 術 に よ っ て 左 右 さ れ る こ と が 考 え ら れ 、 そ う い っ た 専 門 性 の 習

Table 1 聴覚障害学生 の 意 思 表 明 支 援 に 関 し て 生 成 さ れ た 概 念

カテゴリー	サブカテゴリー	概念
1 初回面談での対応		1 情報保障体験の提供
		2 コミュニケーション方法の模索
		3 自己語りの引き出し
		4 特性の把握と支援方法の提案
2 情報保障の基盤形成	情報保障ニーズの把握	5 イメージ形成による情報保障ニーズの共同確認
		6 ニーズの言語化のうながし
	情報保障要請と利用の促進	7 聴覚障害学生 の ニーズ を 察 知 で き る 情 報 保 障 者 の 配 置
		8 情報保障要請に関わる主体的な行動のうながし
		9 情報保障利用上のルール・マナーの提示と理解促進
		10 授業以外の場面での情報保障の模索
3 情報保障の実践的見識の形成	支援に対するコミットメントの促進	11 自己決定の見守りとうながし
		12 話し合いの積み重ねに基づく合意の形成と支援
	支援内容の変更にとりもなう調整	13 段階に応じた働きかけ
		14 要望や不満の受け止めと支援内容変更への対応
		15 妥当な支援の共同模索
		16 授業形態や専門性に 応 じ た 支 援 方 法 の 共 同 模 索
		17 ゼミ等での発言・発表方法の模索
4 関係性の構築と促進	心理状態の受けとめ	18 困りごとへの気づきおよび打ち明けの促進
		19 障害に対する捉え方に応じた心理的距離の調整
	—	20 ラポール形成を意識した話し方・接し方
		21 コミュニケーション方法の選択と活用
5 聴覚障害学生 の 当 事 者 性 の 涵 養	当事者との接点形成	22 ソーシャルサポート資源としての当事者学生の活用
		23 聴覚障害教職員の当事者性の活用
	自己表出機会の増大	24 自分について説明する機会の確保
		25 手話によるコミュニケーションの活用や手話環境の醸成
6 多様な聴覚障害学生への対応		26 情報保障を利用しない学生との関係の構築と維持
7 環境整備	周辺環境の整備	27 周囲の人々との関係性の把握
		28 相談しやすい環境の整備
	—	29 聞こえる学生への理解啓発
		30 保護者とのコミュニケーションや関係に関する情報収集
8 支援担当教職員が持つ支援技術	習得している知識と支援スキル	31 聴覚障害に関する知識を活かした支援
		32 心理・福祉分野の対人援助技術の援用
		33 聴覚障害学生 の 支 援 ニ ー ズ の 変 化 に 関 す る 経 験 的 知 識
	学内ネットワークの活用	34 学内組織との連携・情報の共有
		35 聴覚障害を専門とする教員の活用

得に向けた取り組みの確立が求められるであろう。

## 5. 文献

木下康仁(2003) グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践—質的研究への誘い、弘文堂。

岡田孝和ら(2012) 大学および短期大学における障害学生支援担当者の業務内容・専門性に関する実態調査報告書 II—障害学生支援担当者の業務内容—、日本特殊教育学会第50回大会発表論文集。

※本研究は、平成28年度 PEPNet-Japan モデル事例構築事業「聴覚障害学生 の 意 思 表 明 支 援 ~ 支 援 担 当 教 職 員 の 役 割 を 中 心 に ~」 の 一 環 と し て 実 施 し た も の で あ る 。

(ARIUMI Junko, MASHIKO Toru, KAI Sarasa, YOSHIKAWA Ayumi, MATSUZAKI Jo, IKETANI Kosuke, OTA Takuma, KITANI Megumi, HAGIWARA Ayako, NAKAJIMA Akiko, TAIRA Satoko, SHIRASAWA Mayumi)